

## モデル地域のコミュニティ活動

平成16年2月27日

## 1 . 清水寺・産寧坂地域

### ・清水寺警備団

清水寺職員及び清水1丁目・2丁目，清水新道1丁目の有志（清水寺門前会・清坂会）からなる警備団が昭和23年に結成され、清水寺の防火・消火活動、緊急時の文化遺産搬出等が行えるボランティア組織となっている。

消防活動の訓練も定期的に行っており、消火栓の使用の許可も得ているため、迅速な消火活動が可能となっている。



火災時に文化財を持ち出す訓練の様子（京都市消防局提供）



清水坂の消火栓



清水坂の消防ホース

## ・自治連合会

清水学区の自主防災会は、阪神大震災を契機に独自の防災マニュアル作りに取り組み、平成7年5月には1650の全世帯に配布している。自治会活動として、日頃から自主防災の様々な活動に取り組んでいる。



防災まちづくりの取り組みを説明する  
各団体代表者

## ・ 東山散策道路を守る会

産寧坂に立ち並ぶ商店の人によって構成される会で、伝統的な町並みを形成していくための活動を行ってきた。この活動の中で話し合いが重ねられ、情緒ある町並みを保存していく方向で意見が一致し、昭和51年に伝統的建造物保存地区として指定された。現在の主な活動はこの地区の美しい町並みのPR活動が主体となっている。



伝統的建造物群保存地区として指定されている産寧坂

### ・清水安全・安心まちづくり実行委員会（あんあん会）

平成 8 年に京都市が行った防災計画の策定のためのアンケート調査結果を契機にして、地域の自治連合会、消防分団、自主防災会等が集まり、従来の組織にとらわれない防災をキーワードにした学区全体のまちづくり活動が始まった。

そして、立命館大学の協力を得て学区民が主体的に参加したワークショップ等の活動から、あんあん会というネットワークが結成された。

活動の成果として、平成 10 年 7 月には高台寺近くに防災公園が整備されている。

また、学校と連携して小学校 4 年から防災訓練を行ったり、消火栓の位置や袋小路の道路の位置が一目でわかるような地図を作成して、住民に配布するなどの活動が行われている。



高台寺防災公園



ワークショップで高台寺公園の計画について意見交換を行っている様子（HPより）



民家の玄関脇にさりげなく設置してある  
消火栓



防災上課題が多い坂道



## 地元ヒアリングの結果

項目	概要
清水寺と門前町の警備団の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>清水寺だけで火事に対応するのは困難であり、門前町も清水寺が焼失すると商売に支障をきたすことから、両者の利害が一致し、自発的な活動として警備団が形成されている。</li> </ul>
警備団の結成	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和 23 年 1 月に清水寺関係者と門前町の住民で結成。</li> </ul>
警備団の組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>清水 1 丁目、2 丁目、清水新町 1 丁目の有志で構成され、門前会(商店街組合)と若手の清坂会のメンバーからなる。</li> <li>団長は清水寺から、副団長は清水寺と門前会から入り、各部署には責任者がいる。</li> <li>中学生の頃から警備団を手伝い、学校卒業後に入団し、好きな部署に所属。長期的に各部署の仕事を覚えられるよう弾力的に配置換えを行っている。</li> </ul>
警備団の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和 40 年から防災施設の整備を進め、昭和 42 年に完成。消防局からの指導、防災訓練や東山大会(9 月開催)を通して、消火活動を行う実力を有している。</li> <li>夜間巡回を毎日行い、12 月 24 日～30 日は歳末警戒として徹夜警備を実施している。必要経費は清水寺が払い、年間 40～50 万円程度の予算である。</li> <li>消防ホースの取扱いは、一般の人は使用できないが、警備団では使用が許可されている。なお、消防隊員が到着したら消火活動は引き渡すこととなっている。</li> </ul>
警備団によるコミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の人のみでの参加で、清水寺に対する親近感を有している。警備団の活動が、年代の異なる人の交流の場となっている。</li> <li>転入者にとっては、警備団の活動を通して近所づきあいが可能。</li> <li>消防局の下部組織となる消防分団が東山区にあるが、サラリーマンで構成されているため、警備団との連携は特にない。</li> <li>細かい取り決めはなく、緊急時には個々が自主的に判断して行動する。そのため、日頃からの連携が重要となっている。</li> </ul>

## 地元ヒアリングの結果

項目	概要
活動の継続について	<ul style="list-style-type: none"> <li>警備団は自主的な活動であり、楽しくないと継続するのは困難であり、訓練等も強制ではなく、気楽に参加できるよう配慮している。</li> </ul>
清水寺の消火施設について	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和 42 年に、緊急時に自然流下で水を利用できるよう、600m<sup>3</sup> の水槽を裏山に設置。赤門から約 20m 高い標高に設置され、水頭差のみで放水可能である。警備団の操作も認められている。</li> <li>水槽からは可とう管で清水寺の敷地をループ状に配管しており、どこか 1 箇所壊れても逆ルートから送水可能。</li> <li>水槽の上方に水道局の 200m<sup>3</sup> の給水槽があるが、この水の利用は許可されていない。</li> <li>敷地内の平地に設けられている 100m<sup>3</sup> の消防用の防火水槽は、消防のポンプ車による吸水が必要。</li> <li>清水坂には、3 箇所の消火栓と消防ホースが設置され、緊急時の警備団の使用が許可されている。道路に設けられた水道栓 6 箇所の利用も緊急時の使用が認められている。</li> </ul>
防災上の課題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災による焼失が最も恐ろしい。</li> <li>外部からの進入路としては五条通しかないため、この箇所が通行不能となると、消防車等が進入できない問題がある。</li> <li>ハードを整備しても、これを使う人がいて初めて機能するもので、ソフト面での工夫が必要である。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>清水寺の観光客は非常に多いが、観光客の避難方法等については検討されていない。</li> <li>自分を守るために地域とお寺を守る。共存共栄できるように、“点”ではなく“面”で地域を守っていくことが重要である。</li> </ul>

## 2 . 柴又帝釈天地域

### ・柴又自治会

柴又地区の自治会。年に一度の防災訓練を行っている。柴又地区の避難場所は『柴又野球場・江戸川緑地一帯』となっている。



柴又自治会の防災訓練スナップ



防災訓練スナップ（江戸川緑地）

## ・ かつしかまちかどネットワーク

かつしかまちかどネットワーク（通称まちネット）は、「自らのまちは自らの手でつくる住民参加のまちづくり」を研究テーマに、葛飾区教育委員会の支援のもとで勉強会を5回開催している。まちづくりのトピックに防災、自転車、市街地の活性化、河川などを盛り込み、まちづくりに関する問題について取り組んでいる。



延焼の危険性が高い路地



ビニール・ハウスでの避難訓練

### ・柴又神明会消火隊

柴又神明会は帝釈天参道の商店街の組合であり、その下部組織にボランティアの消火隊がある。

活動そのものが停滞していたが、世代交代や柴又帝釈天の住職の子息の参加もあって近年活動が活発になっており、消防活動の基本的な訓練が行われている。

### ・柴又防災ボランティア

一般の住民が参加している組織で、20～30名程度で構成されており、登録会員は救命2級程度の訓練を受けることとなっている。

## 地元ヒアリングの結果

項目	概要
関連組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝釈天周辺の防災関連組織としては、以下のものが挙げられる。  金町消防署  金町消防団第三分団  帝釈天の自衛消防隊</li> <li>金町消防署柴又出張所  神明会消火隊</li> </ul>
帝釈天内の防災施設・活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝釈天の自衛消防隊の活動は活発でない。</li> <li>境内に 50m<sup>3</sup>の防火水槽が 2 基、山門前の駐車場に 30m<sup>3</sup>の防火水槽が 1 基設置されている。</li> </ul>
消防団について	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝釈天周辺を活動区域とする金町消防第三分団は 40 名程度である。</li> <li>防災水利として、最終的には江戸川の水を想定しており、江戸川からの長距離輸送の訓練を行っている。</li> </ul>
神明会消火隊について	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝釈天門前の商店街互助組合である神明会の下部組織として神明会消火隊が設置されている。</li> <li>神明会消火隊の常時の訓練の参加者は 6～8 名で、基本的な訓練を行っている。訓練には、帝釈天の住職の子息が参加しており、今後帝釈天自衛消防隊と神明会消火隊の連携が図れると考えている。</li> <li>活動を通してコミュニケーションが図られている。</li> <li>消防団の消火ポンプと同じ排気量のポンプを所有。</li> <li>神明会消火隊は任意のものであるが、全ての人が一通りの操作ができるまで訓練を行う。</li> <li>行動マニュアル等は策定されていない。</li> <li>消火隊に限らず神明会の会員は、「参拝客が火事に巻き込まれることがあってはならない」という意識を共有している。</li> </ul>
門前の防災施設について	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防団、神明会消火隊共に消防格納庫を持っている。</li> <li>参道には消火栓が 2 箇所程度、山門の前の駐車場に 1 箇所設置されている。</li> </ul>
住民の意識について	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お寺なくして柴又の町はなし」という意識で商店街はもちろん、住民全体で帝釈天を守ろうという意識は高い。</li> <li>柴又には「防災ボランティア」という組織が 20～30 名程度で構成されている。これは、神明会会員とは無関係に、一般の人が登録している。登録会員は、救命 2 級程度の訓練を受けていると聞いている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>参道にはわき道がないので災害時の観光客の誘導は容易ではない。</li> </ul>

